

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100171		
法人名	医療法人 蛭慈会		
事業所名	グループホーム港町		
所在地	青森市港町2丁目15-29		
自己評価作成日	令和1年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和1年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人医師による往診のほか、日・祝祭日・夜間を問わず24時間緊急時の対応可能。医師や看護師・介護職員が一丸となり、ターミナルケアを行えるように取り組んでいる。
 地域の一員として町内のねぶたや清掃・声かけ訓練等へ積極的に参加し、ホームの行事にも近隣住民を招待し、交流を図っている。
 入居者のできる事は奪わず、できない事を強要せず、入居者一人ひとりに合わせた『さりげないケア』を常に心がけ、取り組んでいる。職員は向上心を持ち、やりがいを感じながら活き活きと働いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[地域の中で自分らしく生き生きと]という理念を掲げ、地域での活動を通し、周りと楽しく暮らしていけるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内ねぶたではバケトで参加し、祭りを盛り上げており、町内の方々も毎年楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入居希望者からの相談時等に認知症の方への理解の仕方を伝えたり、学生の実習や職場体験を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度より近隣の福祉施設と合同で会議を行い、情報交換を行っている。そこで得た情報を活かした取り組みを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センター職員も参加しており、毎回、確実に会議の報告書を提出し、問題解決に向けた相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修で知り得た知識をホーム内研修で全職員へ周知できるように努め、身体拘束を行わないケアを提供できるように取り組んでいる。夜間に限り、防犯のために玄関の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。また、虐待を未然に防げるよう、職員同士で注意し合える環境整備の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が内部研修を行い、全職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は入居者や家族の希望や疑問、意見を聞き、ホームのケアの方針等を説明し、納得や理解を得た上で契約している。退去時は入居者や家族等に不安が生じないように、入居先のホームに情報提供を行う等、支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、毎月、家族への手紙を各担当者が書いており、返信用に家族の意見や要望を記入できる欄を設けている。出された意見や苦情等を検討し、速やかに対応できる体制を整備している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が気軽に相談できる環境作りに努め、意見や提案を反映できるように取り組んでいる。即座に判断することが難しい内容である時は、ミーティング時等に全職員で検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断を実施しており、職員の心身の健康を保つ体制を整えている。研修や資格取得に向けた支援を行うと共に、保有資格を活かした職員配置をする等、やりがいや向上心を持てる職場環境となるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム独自の年間研修計画を作成して、職員個々の力量や経験に応じた研修へ参加し、受講後は報告書の作成や内部研修で全職員に反映できるようにしている。研修受講の際は日々のケアに支障がでないよう、勤務体制に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に外部研修へ参加し、情報交換や意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。系列施設の合同親睦会への参加も交流の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込時に家族等と面談し、入居者の普段の様子や希望を伺う等、直接話を聞く機会を設けており、その後、本人と会って身体状況やニーズ、思い、不安の把握に努めている。また、相談を受ける際は本人と信頼関係を築くことを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯について、家族と直接会って話す機会を設けており、家族の思いや希望、ニーズを把握し、入居後のケアの方針に活かせるように努め、家族との信頼関係が良好になるよう、意識しながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に生活歴やADL等の情報をいただくことで、入居時に必要な物を見極めるように努めている。歩行器の必要性が考えられる場合には、入居日前に歩行器のサンプルを準備する等、対応していた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや食器洗い等、入居者と職員が一緒に協力しながら家事を行っており、洗濯物干しや洗濯物畳み等は得意な入居者の好きなやり方で、自由に自信と責任を持って生き活きと行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を詳しく伝えたり、毎月手紙を送ったり、家族と情報交換を密に行うことにより、家族と職員が入居者を共に支えている関係性となれるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの方との関わりを継続できるよう、馴染みの方が来所した際はゆったりと寛いでいただけるような環境を作り、繋がりが途切れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の気が合う、合わない等の関係を把握し、自分から他者とのコミュニケーションを図れない入居者が孤立することがないように、一緒に行えるレクリエーション等を通じて仲間意識を持ち、より良い人間関係作りに繋がるよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じる旨を家族には示している。また、次の入居予定施設がある場合、それまでの状況やケア等の情報を提供し、環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションや日常の行動から入居者の思いや希望、意向を把握するように努めており、カンファレンスを開き、情報を共有し、入居者の意向に沿った支援に努めている。意向の把握が難しい時は、入居者について知っている家族へ相談し、対応を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族等から生活歴やライフスタイル、個性、価値観といった情報を得ているほか、入居前に受けていたサービス担当者からも情報を提供していただいている。情報は書面に残し、職員間で情報共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル値や食事量、排泄チェック表の記入とケース記録により、1日の生活リズムを把握して、わずかな状態変化にも気づけるように努めている。また、日々のコミュニケーションの中で、できる事や分かる力を見つけようと努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はその人らしく暮らし続けることができるよう、可能な限り入居者の意見を聞いて作成し、月1回、職員の気づきや意見を基に会議をし、モニタリングを行い、入居者本位の個別具体的な計画となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の日々の暮らしや身体状況、ケアプランに沿った実践状況、工夫、気づき等をその都度記録し、月1回まとめを行い、介護計画の作成や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である病院と医療連携体制を取っているため、入居者の急病時等に早期対応ができています。関連施設もあり、入居者と家族の意向で転居した例もあり、柔軟な対応を行っている。また、外食希望のニーズに応える等、自主サービスも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、町内ねぶたに参加しており、祭りを楽しんでいる。地域の方達にホーム行事への参加を呼びかけ、一緒に楽しめるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人が病院であり、月2回の往診や状態変化時は都度、報告して対応している。入居者や家族が他医療機関の受診を希望した時は、情報提供等も含め、スムーズな受診を支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人が病院であるため、入居者の状態変化が見られた場合、即座に病院の看護師に報告、相談し、病院受診ができる体制を整えている。週1回、健康相談で看護師が訪問しているため、適切なアドバイスを受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族と密に連絡を取り合い、入居者と家族にとって最善の方法を考えることができるよう、関係作りをしている。主治医によるホームでの治療が可能である時は、早期退院も可能となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りの方針を定めており、入居者や家族とは早い段階でケアの方向性を話し合い、より良い看取りケアを行うことができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間緊急時の連絡・対応マニュアルを整備しており、外部研修にて応急手当や救急救命の研修に参加し、内部研修で全職員が知識と技術を高められるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	年2回、夜間を想定した火災時の避難訓練を入居者と一緒に行っている。定期的に消防設備の点検を受けており、災害発生時に備えた食料や飲料水の備蓄、管理を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の言動を否定・拒否することなく、羞恥心やプライバシーに配慮した支援を行っている。また、守秘義務や個人情報の取り扱いも慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者一人ひとりの思いや希望を話しやすい環境を作れるように支援している。言葉での表現が難しい入居者も、着替えの際は複数の衣類を見ていただき、選んでいただくように働きかけたり、飲みたい物をなるべく選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や食事等、時間が決まっている事もあるが、絶対というわけではなく、その時々入居者の気持ちに合わせ、自分のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を見て、選んでいただいたり、衣類や整容に乱れが見られた時はさりげなく直している。髪を結ってもらうのが好きな入居者には髪を結び、リボン等を付けることで喜んでいただいている。化粧をしている入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査の結果により、入居者の好みの献立を提供している。調理もできる入居者はキッチン内で職員と一緒にいる。食器洗いや食器拭き等、後片付けも一緒に行っている。また、食事作りを行った職員は介助を行いながら、一緒に食事を摂っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食量をチェック表に記入し、把握している。水分摂取はティータイムや毎食時、入浴後に提供しており、それ以外に入居者の希望時にも提供し、水分は十分に摂ってもらっている。また、嚥下機能が低下した入居者は刻み食やミキサー食にとろみをつけ、安全に食が進むように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、清潔保持に努めている。洗口液でうがいをしていたり、歯のない入居者も食後に専用のブラシを使用し、清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を続けたところ、失禁なくトイレでの排泄ができることが増えている入居者もいる。逆に布パンツ使用で下衣汚染が顕著に見られていた方へ紙パンツで対応したところ汚染が減り、自信回復となっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、運動や体操等を行い、便秘解消を行っている。それでも排便がない場合は主治医より、入居者個々に応じた対応の指導を受け、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴するタイミングは入居者と話し合い、合致した時に行っている。入浴の仕方は様々あるため、自分なりのお風呂のやり方を楽しんでいただいた後、洗い残しを介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活習慣を把握し、対応している。早く就寝したい入居者や遅くまで起きていたい入居者へ配慮し、安心して眠っていただけるよう、柔軟な支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬情報はファイルにまとめてあり、全職員が用法や副作用等を把握している。服薬前に職員2名で確認し、服薬後は薬袋とチェック表に押印し、誤薬のないように確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の意向と現在の力量を反映させ、入居者一人ひとりが主役となり、舵を取り、満足できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける入居者は近所の散歩を行っているが、ADLの重度化で車椅子移動の入居者は外出が難しい状況だが、観桜会や外食会、ドライブ等の行事で外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行から金銭の自己管理が難しくなっている入居者が増えているが、外食の時はレジでお金を払っていただいたり、普段の生活を彷彿させるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に来た電話は事務所や居室で出ている。手紙のやり取りは書いた字が分かりにくい入居者の場合は内容を代筆し、手紙のやり取りを継続して行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日中適温を保てるよう、暖房や空調を使用し、管理している。テレビやBGM等は都度、入居者に適度な音量か確認して調節している。また、季節を感じられるよう、壁等に装飾品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のホールにはテーブルが3台、テレビを見ながら寛げるソファがあり、畳の小上がりもあるため、入居者は自分の好きな時に好きな場所で気の合った入居者と寛がれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から愛用していた馴染みの物を持参していただき、居室のレイアウト等、入居者や家族と話し合いながら行っている。ADLに合わせ、トイレに行きやすくなるよう、夜間はベッドをトイレに近づける等、工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分からなくなった際に混乱しないよう、居室に表札を掲げ、都度声がけ、見守りを行っている。1日のタイムスケジュールを居室内に掲示する等、自立支援に繋がるように工夫を凝らしている。		